

台湾との技術交流について

企画部 部長 丸岡 昇
岐阜分室 主任研究員 浅野 智仁
企画部 主 事 川口眞由美

1. はじめに

平成14、15年度に引き続き今年度も（財）リバーフロント整備センターと七星農田水利発展基金との技術協定にもとづき、技術交流が行われた。平成16年度は10月18日から22日の日程で台北市及び台中市等において河川に関する講演会と現地視察を行ったので報告する。

2. 講演会について

講演会は、經濟部水利署の技術者を対象に、台北市と台中市において、あわせて2回開催された。水利署は日本では国土交通省河川局にあたる組織で、出先の局を含む水利署全職員は1,800名である。参加者は2回の講演会共に30名程度で、熱心な聴講と質疑応答が行われた。

<講演内容>

- (1)日本における河川行政の環境配慮への歴史的変遷
（（財）リバーフロント整備センター竹村理事長）
- (2)総合治水対策の計画と実践（（独）土木研究所水循環研究グループ津森主任研究員）
- (3)多自然型川づくり講演のアウトライン紹介
（（財）リバーフロント整備センター丸岡部長）



写真-1 講演の様子



写真-2 発表の様子

<要望>

水利署から総合治水対策・多自然型川づくりに関して、台湾の1河川をパイロット事業として実施して欲しいとの協力依頼があり、竹村理事長から喜んで協力するとの回答があった。

3. 現地視察

①淡水川支流基隆川の特殊堤（台北市郊外）

河川内高水敷の河川公園は芝生広場、野球場、多目的広場、遊具、移動式トイレ等が整備され、市民のレクリエーションや憩いの場として利用されている。

②石岡ダム（台中県）

石岡ダムは、大甲溪（河川延長L=124km）に1977年に建設された台中県の灌漑、公共、工業用水の取水

を目的とした重力式のダムである。1999年9月21日に台湾中部で発生した地震の際、ダム右岸河床の断層活動により、水門18ゲートの内3ゲートが破損した。その後、連続壁工法による復旧工事により、現在は正常な機能回復に至っている。

③大甲溪上流の山腹崩壊と土石災害現場（松鶴地区）

石岡ダム上流部（松鶴地区）では、1999年の台湾中部の大地震による山腹崩壊等の山地の荒廃が進み、その後大雨時には土砂災害の発生が頻発している。特に平成16年7月2日の台風による豪雨によって、多量の土石流が河川に流れ込み、護岸の決壊や落橋（当地区では4橋中3橋）が発生し、さらには岩石を含む土石が異常堆積（深さ10~14m）し、河積を大きく阻害している。

<要望>

水利署から、当地区の土石災害現場における短時間で効率的かつ経済的に復旧する方策に対するアドバイスを求められた。

④大溝溪<溪流生態工法>見学（台北市内）

七星農田水利発展基金が台北市内で溪流生態工法（ビオトープ）として整備した溪流の事例を見学した。本事業は、1938年にコンセプトが決められ、中断の後、1971年に工事着工、1992年に完成したビオトープ河川である。河川幅は約20m程度の堀込河川で、護岸には径1m程度の巨石を利用し、空石積が基本タイプになっている。散策路は高水敷に設け、親水性を考慮している。床固工は粗石斜路形式の横断施設とし、全断面魚道としても機能させている。



写真-3 土砂堆積状況



写真-4 ビオトープ護岸

4. おわりに

本技術交流は、同じ地形、気候そして急峻な河川を有する日本と台湾の河川技術者が、直面する様々な課題について議論し、蓄積した調査データや経験・事例（特に失敗事例）を通して、これからの両国の河川技術の向上を目指すものとして、大変意義深いものであったと思う。